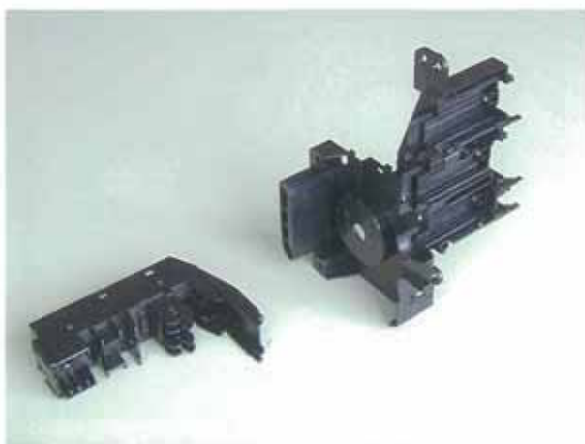


将来を考え、余力あるうちにベトナムに進出

三光金型株式会社



同社の製品（合成樹脂製工業製品）

三光金型は、プラスチック金型の設計・製作や合成樹脂製工業製品の成形加工を行っており、特に自動車用部品に関する一部の特殊な成形については、日本で最高の技術を有している。1982年には、業界に先駆けてCAD/CAM（computerによる設計生産支援システム）や、NC工作機械などを導入する等積極的に先進設備を取り入れ、精度の高い製品を生産している会社である。

余力あるうちにベトナム進出

1993年頃から、自動車メーカーの開発費削減や海外進出に伴う部品の現地調達化などによる外的環境が変化し、年間売上も1,270百万円（1991年9月期）から650百万円（1995年9月期）と激減した。この間、語り尽くせないほど様々な問題が起き、バブル崩壊後最大の危機を迎えた。

その後、多岐にわたる体質改善や新規事業への進出などにより業績は回復し、2000年9月期には、1,540百万円の売上を上げるに至った。しかし、マーケットでは、製品単価の低下やグローバル化の波が襲い続けていた。そこで、体力のある今ならリスクが取れると判断し、海外への進出を決断、調査を重ねた結果、進出先はベトナムと決めた。この決断が、以後の同社の発展に大きく寄与することになった。

ベトナム現地会社を立上げ

同社は輸出型の製造事業であることにより、2000年7月、2週間という短期期間で、ベトナム政府より投資ライ

センスを取得することができた。ホーチミン郊外にある工業団地を選定して工場を建設、翌3月には現地工場が完成した。資本金は\$600千、敷地面積は6,672㎡、建物面積1,380㎡であった。

当機構は、ベトナム進出と現地工場建設に関して、投資ライセンスの申請に関する書類作成上の留意点、工場に持ち込んだ中古機械に関するコスト削減方法、など詳細にわたるアドバイスを行った。また、現地従業員の募集については、工場建設の進捗に合わせて人材採用すること、優先順位は技術者・管理スタッフ・一般従業員とすること、経理関係は、新聞広告によるか、または会計事務所から推薦を受けるのが良いこと、さらに労働契約は一年にして、当人たちの働きぶりを見て次年度の更新を決めるのが得策、といったアドバイスも実施。これらは後に現地会社の人事政策の骨子となった。

併せて、現地にすでに進出している企業で規模や業種が類似しているところを紹介し、現地及び国内の事務所を訪問させるなど、有益な情報を得る手助けをした。

当時の経緯について、増田社長は「当社にとり海外進出は初めてであり、未知の分野が多かったが、このアドバイス制度を利用することによって、具体的な進め方がわかり、スムーズに現地会社を立ち上げることが出来た。また、その後の現地会社の経営にも役立った。これらのアドバイスはすべて無料でやってもらったので進出に要する費用をかなり圧縮できた。」と振り返っている。

その後、現地工場の稼働がすすむにつれて、現地への技術移転も除々に進み、今では、現地会社がイニシアチブをとっての経営を行うようになってきている。



Sanko Mold Vietnam Co., Ltd. (現地会社)

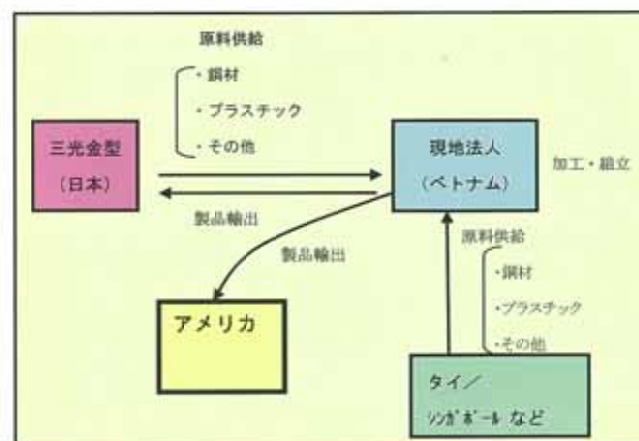
工場拡張でさらに増産

現地での業績を伸ばした同社は思い切って、将来のために工場増設に踏み切った。その第二工場は2005年6月に建設工事が完了、建物面積1,338㎡、工場の総面積は2,718㎡で、資本金合計は\$940千となった。事業内容は、主として射出成形金型の製作（成形機のトン数で50T～180T）、射出成形加工（50T～350T）、部品組立て（ハーネス、樹脂部品）である。

今後も、現地での生産はさらに増えるものと予想される。また、現地会社と本社の関係も、従来の親子的な関係から、さらにパートナーシップ的な関係になっていくものと予想される。

ベトナムは、他のアセアン先進諸国や中国と比べて、裾野産業が遅れている。ベトナム政府も、この分野の発展の為、外資の進出を強く希望している。精密部品金型の設計や成形を中心とした本事業は、ベトナム政府の要望に沿うものであり、また、ベトナム国内の工業化進展に伴ってベトナム国内での需要も増えると予想される。このことから、同社の現地事業の一層の発展が期待される。

(経営支援専門員 星野 達哉)



専門員の視点

同社は、有力自動車メーカーの2次下請であり、1次下請メーカーより30%のコストダウンを要求されたのが、海外進出を考えるきっかけとなった。中国・タイ・ベトナムを見て回り、ベトナムが自社に一番適しているとの印象を持って進出を決めた。これは、適切な時期にかつ体力のあるうちにベトナム進出を決断した増田社長の優れた経営感覚によるものである。ベトナムで製造に適した製品に重点を置き、5年で設備を更に増設するに至った。ベトナム進出成功の典型的な事例である。

三光金型株式会社	
(日本本社)	
所在地	: 愛知県西加茂郡
代表者名	: 増田 明弘
業種	: 製造業
事業内容	: プラスチック金型の設計・製作および樹脂成形加工
創業年	: 昭和47年(1972年)
従業員数	: 36名(男24 女12)
資本金	: 1000万円
年間売上高	: 20億7000万円(02年9月実績)
(海外現地法人)	
企業名	: Sanko Mold Vietnam Co., Ltd.
所在地	: ベトナム
地域	: ホーチミン市
事業内容	: 金型、プラスチック成型(射出成型金型の製作、射出成型加工、部品組立)
創業年	: 2001年
従業員数	: 150名
資本金	: 940千\$
投資形態	: 独資
年間売上高	: US\$1,332千



成形用金型